

神の国に入るのに必要なこと (1)

ヨハネ福音書3:1-15

【新改訳2017】

- 3:1 さて、パリサイ人の一人で、ニコデモという名の人がいた。ユダヤ人の議員であった。
- 3:2 この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなさっているこのようなしるしは、だれも行うことができません。」
- 3:3 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」
- 3:4 ニコデモはイエスに言った。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるでしょうか。」
- 3:5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」
- 3:6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。
- 3:7 あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思っはなりません。
- 3:8 風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

【祈りながら考えよう】

- (1) ニコデモはどういう人ですか。なぜイエスのもとに来たのですか。
- (2) ニコデモにとって一番必要なことは何であると語られましたか。
- (3) 「水と御霊によって生まれる」とはどういうことですか。



(1) ニコデモはどういう人か

- ①ニコデモはユダヤ教徒の中でも、律法を守ることに熱心なグループのパリサイ派に属していた。ユダヤ教の正統的な信仰を持っており、旧約聖書の権威を信じ、それを実践しているりっぱな人というイメージが一般にあった。
- ②ユダヤ人の指導者であり、ユダヤ人最高議会（全国から選ばれた70人の祭司、長老、学者からなる）の議員でもあった。彼は有力でまた有名人であった。
- ③なぜ夜に、イエスのもとにやって来たのか。その理由は記されていないが、人を恐れる気持ちを抱いていたと考えられる。自分がイエスを訪問したことが人に知れたら、人々はどう思い、何と言うだろうか、と恐れていた。人目を避けて、夜こっそりと来たのだろう。
- ④ニコデモは、イエスが神のもとから来られた教師であることを認めた。イエスがなされた奇蹟は、神がともにおられるのでなければ、だれも行うことはできないことだからである。しかし、その豊かな学識にもかかわらず、ニコデモは、イエスが受肉された神であられる、ということには気づかなかった。

(2) あなたに本当に必要なのは「新しく生まれることだ」

- ①一見すると、主イエスの返答は、ニコデモが直前に述べたことと関係がないように思われる。主はこう言っておられる。「ニコデモよ。あなたは教えを受けるためにわたしのところにやって来た。しかし、あなたに本当に必要なのは『新しく生まれる』ことだ。そうでなければ、《神の国を見る》ことは決してできない。」
- ②この神の国に入るためには、人は《新しく生まれなければならない》と、主はニコデモに告げられた。最初の誕生がなくては肉体の生命があり得ないように、二度目の誕生がなければ、神のいのちにあずかれない。言い換えれば、神の国に入れるのは、いのち・生活 (life) が変えられた人だけである、というのである。

(3) ニコデモの疑問

ここで、人が主イエスのことばを理解することがどれほど困難であるかが改めてわかる。《ニコデモ》はすべてを文字通りに解釈しようとした。成人がどうやってもう一度生まれるのか、ニコデモには理解できなかった。もう一度生まれるために母の胎に入ることなど、肉体的には不可能ではないか、と思った。

(4) 水と御霊によって生まれるとは

さらに説明は進み、「水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできない」とイエスはニコデモに言われた。いったいイエスは何を言おうとされたのだろうか。「水と御霊によって生まれなければ、…」の「水」は何を意味するのか。様々な解釈がある。

①文字通りの「水」を意味するとの解釈

文字通り水のことを言われたのであって、救いにはバプテスマが必要であると語られたのだ、と多くの人（カトリック教会、聖公会、ルター派等）は主張する。しかし、この教えは、聖書のその他の個所の教えと矛盾する。神のことばに一貫しているのは、救い、すなわち、新しいいのち（永遠のいのち）を得るには、主イエス・キリストに対する信仰によってのみもたらされる、というものである（ヨハネ3:15-16、20:31等を参照）。バプテスマは、新生に至る手段なのではなく、すでに新生した人の証しのためにある。

②ここでの「水」とは「神のことば」を指すとの解釈

ここでいう《水》とは神のみことばを指すのではないかという人もいる。エペソ5章25-26節では、《水》が神のことばと密接に関連づけられている。また、1ペテロ1章23節およびヤコブ1章18節は、新生が神のことばを通して実現する、と言う。ゆえに、この個所で言う水が神のことばである聖書を指している可能性は高い。

③「水」は「御霊」を指すとの解釈

この説を主張する人には、宗教改革者カルバン、ウィックリフ、ライル、尾山令仁等がいる。ヨハネ福音書の中では、《水》は聖霊を指す場合もある。ヨハネ7章37-39節で、主イエスは生ける水の川のことを話された。そればかりか、主が水と言われたのは、聖霊を指している、と明確に書かれている。もし7章で水が御霊を意味しているのであれば、3章でも同じ意味であってはいけない理由はない。しかし、この解釈が受け入れられるためには、1つの問題点がある。「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません」とイエスは言われた。もし、「水」が「御霊」を意味する、と解釈するなら、この節の中で御霊が2回も（御霊と御霊によって）と繰り返されていることになってしまう。

しかし、「と」と訳されているギリシャ語 (καί : カイ) は「すなわち」と訳しても問題はない（ギリシャ語辞典参照）。したがって、この節は以下のようにも読める。「人は、水、すなわち御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません」。これがこの節の正しい意味であろう。

肉体のいのちだけでは不十分なのである。もし、神の国に入ろうとするなら、霊的な誕生が必要である。この霊的な誕生は、主イエス・キリストを信じる時に、神の御霊がもたらしてくださるものである。「御霊によって生まれる」という表現が、このあとの節に2度登場する（6、8節）事実からも、この解釈が妥当であることが分かる。

仮にニコデモが、何とかもう1度母の胎に入り、もう1度生まれることができたとしても、内側に存在する悪の本性を矯正することはできない。

《肉によって生まれたものは肉です》という表現は、人間を両親として生まれる子どもは、罪の中に生まれたゆえに、自分で救いを得るという点では、絶望的で無力であることを意味している。

他方、《御霊によって生まれた者は霊である》。主イエスを信頼する時に、霊的な誕生が起こる。御霊によってもう1度生まれると、新しい性質が与えられ、神の国にふさわしい者とされるのである。

(5) 新しく生まれた人の状態

主イエスは、自然を使って霊的な真理を説明された。主はニコデモに言われた。風は吹きたいところに吹く。そして人はその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くのか分からない。それはあなたも知っている通りだ。新生も風と大変よく似ている。

第1に、新生は神の御心に従って起こる。それは人間が自分で制御できる力ではない。

第2に、新生は目に見えない。新生が起きることは目に見えないが、新生の結果はその人の生活に表れる。救われると、その人に変化が訪れる。以前愛していた悪しきものを、今度はひどく嫌うようになる。以前は嫌っていた、神に関する事柄が、今度は大好きでたまらないものになる。

風は吹いていても、それを目で見ることはできない。ただその結果や現象としての音を聞くことができ、雲や煙がたなびくのを見ることはできる。

それと同じように、御霊による新生も、人間の目では見ることはできないが、御霊が新生させてくださると、その人の人生が変わるので、誰の目にもよく分かる。それは結果にすぎない。

御霊による新生のしるしが何であるかは、ヨハネの手紙第1を学べば分かる。神から生まれた者は「イエスがキリストであると信じる」「常習的に罪を犯さない」「義を行う」「兄弟を愛する」「世に打ち勝つ」「悪い者が触れることができない」（1ヨハネ5:1、3:9、2:29、3:14、5:4、5:18）。これらの御霊の実が見られる時、そこには主が語っておられる新生が起こったことを知る。これが御霊によって生まれた者である。